

# 女性医師・研究者支援基金

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers



東京女子医科大学  
Tokyo Women's Medical University

女性医師・研究者支援基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療者たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献するために役立てて参ります。今後とも何卒ご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 女性医師・研究者支援センター

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

アニュアルレポート2014 Spring  
Annual report

○ ご寄付合計金額 **42,890,000円** (平成26年3月末現在)

○ ご芳名一覧(五十音順) 平成25年4月から平成26年3月末まで

- 新井 尚希 様    ○ 伊東 香 様    ○ 梅根 真知子 様    ○ 医療法人 小川医院 様
- 賀川 治美 様    ○ 木島 澄子 様    ○ 小内 友紀子 様    ○ 坂田 仁 様    ○ 坂本 元美 様
- 櫻林 なおみ 様    ○ 瀬山 俊一 様    ○ 舟山 幸 様    ○ 堀野 雅子 様    ○ 松永 和歌子 様
- 水内 知子 様    ○ 山田 多佳子 様    ○ 山田 千津子 様    匿名15名

### ○ 募集要項

- 目的・・・女性医師・研究者支援事業のための経費
- 目標額・・・3億円
- 対象・・・法人:1口の金額を特に定めておりません  
個人:1口2万円(多数のご支援をいただけますと幸いです。)

\*申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

## 東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL:03-5269-7319(内線:8382) FAX:03-3353-6793

E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/w-support/



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

21世紀に入り、女性医師は増加し、2013年の医師国家試験合格者では女性が32.7%を占めますが、指導的地位に立つ女性医師(研究者・教員・管理職・医師会役員、学会役員、国・自治体委員等)は極めて少ないのが現状です。また分野別女性医師の割合は産婦人科医では28%(20歳代で68%)、小児科医では33%(20歳代で50%)にみられるように、女性医師の特性にふさわしい医学教育-初期・後期臨床研修-生涯教育にわたる包括的かつ体系的な教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師の育成が極めて重要です。本学では平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」後、平成21年、男女共同参画推進局を設立し、多くの事業を進めています。女性医師・研究者支援センターでは、女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備しています。文部科学省「周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」による「男女共同参画型NICU人材養成プログラム-地域とささえあう周産期医療」補助金により形成された女子医大ファミリーサポート事業も順調に定着しました。また、女性医師再教育センターでは、出産、子育て、あるいは配偶者の転勤などで、臨床現場を離れた女性医師が現場での研修などによる再教育を行い、「セーフティネットとしての支援」に加えて「キャリア形成支援」を推進し、「復職支援でニーズの高い一般内科医師研修プログラムの作成」「e-ラーニングプロジェクト」などの活動を実施してきました。

「女子医大のセカンドステージ」において、創立者吉岡彌生先生の建学の理念を継承し、発展させ、指導的地位に立つ女性医師育成のために、女性医師・研究者支援センターのさらなる活躍と発展を期待しています。



東京女子医科大学  
学長 笠貫 宏

東京女子医科大学 男女共同参画推進局 副局長  
女性医師・研究者支援センター センター長

厚生労働省の医師国家試験合格者の男女別割合の推移をみると、過去20年以上にわたり継続して女性は男性より高い合格率を示してきています。女性のライフイベントとしての結婚・出産・子育ての時期は、医師としての診療の実力の養成、学会発表、学術論文作成、さらに専門医や学位取得等のキャリア形成すべき期間と重なります。優れた能力を有する女性医師が、人生にとって重要なこの時期を乗り越えるためには、診療と研究継続の高い自覚を持つこと、および、その能力を十分に発揮するための環境整備が重要です。女性医師・研究者支援センターのミッションは、女性医師・研究者のキャリア形成の継続の支援、ロールモデルの育成、そして価値ある業績を蓄積できるように環境整備することです。その結果、男女共同参画を推進し、医師不足を解消し、医療の発展と医学の進歩がもたらされると考えます。

女性医師・研究者支援センターが発足して6年目となりました。多くの方たちのご尽力により、本学の子育て支援・女性医師支援は整備されてきました。院内保育所においては、昼間保育、延長保育、夜間保育、休日保育、そして病児保育が充実し、待機児保育としての院内保育所を産休・育休明けに利用して、早期の職場復帰がなされています。平成23年度からの、より細やかな、オーダーメイドとも言えるファミリーサポートによる子育て支援は、順調な成果を挙げており、平成26年度には、東京医科大学との連携プログラムが発足致します。教職員、学生の父母の皆様、先輩である本学の卒業生(至誠会員)からの温かいご支援をいただき、「女性医師研究者支援基金」「佐竹高子女性医学研究者研究奨励金」「宮原敏基金」の対象者が選考され業績を築いています。多様な勤務形態の整備による支援も充実して参りました。厳しい時期にも医学研究、医療を継続するという女性医師自身とその周囲の意識改革の進展という効果が出ております。

本学における女性医師・研究者の支援体制をさらに発展させ、指導的地位となる有能な人材が様々な事情でキャリア形成を中断することがないように体制を整備していくこと、大学や病院における育児支援と女性医師・研究者支援のモデルとなる体制の構築を目指して、女性医師・研究者支援センターが尽力しております。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

本事業をご支援くださっている皆様、特に男女共同参画推進局スタッフ、人事部、院内保育所の皆様、ファミリーサポート関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



東京女子医科大学  
附属遺伝子医療センター  
所長・教授 斎藤 加代子

# ごあいさつ

## Annual report 2014 spring

### 女性医師・研究者支援センター 副センター長

近年、少子高齢化が進む日本社会において、女性が果たす役割は益々大きくなりつつあります。また、医学界においても、全国的に女性医師が増えていることから、女性医師の活躍が一層注目されています。それに伴い、女性医師が仕事を継続するため、または、一度離職した医師が復職するために必要な支援が徐々に認知されるようになりました。この数年間には、各地の大学や医療組織において、院内保育所などのインフラ整備・保育支援が進み、勤務形態の多様化(短時間勤務やワークシェア)、キャリア支援、キャリア教育、再教育などのシステムが構築されてきました。

次の課題は、これらの施設やシステムが全国的に普及すること、そしてそれらが十分に活用されることだと思います。有効に活用されるには、利用者とその周囲の関係者の考え方が最も重要です。自分たちの現場で積極的に利用する強い意思がなければ、良い施設や制度も十分に活用されることはありません。また、本当に利用者が使いやすいシステムになっているかどうかを検証し改良することも大事なポイントの一つです。つまり、利用者のニーズを柔軟に取り入れた使い勝手のいい制度を整え、利用に向けては利用者のみならず周りの関係者も含めて、「女性医師支援制度は、皆の仕事効率よく行うための制度」であることを周知徹底していくことが必要であると思われます。

本学の女性医師・研究者支援センターは、医学・医療の分野において全国に先駆けて、仕事と育児を両立しながらキャリアを継続するための女性医師支援を多角的に行い、多くの女性医師を支えてまいりました。本学は、これからも諸先輩方が築きあげてこられた伝統を守りつつ時代のニーズに柔軟に対応し、多くの優秀な女性医師を育成していきたいと考えております。また、これまでの経験や情報を広く共有することで、本センターの役割は本学内の女性医師支援に留まらず、全国の女性医師支援に発展していると信じております。今後とも皆さまの温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



総合研究所  
准教授 竹宮 孝子

### 女性医師・研究者支援センター 副センター長

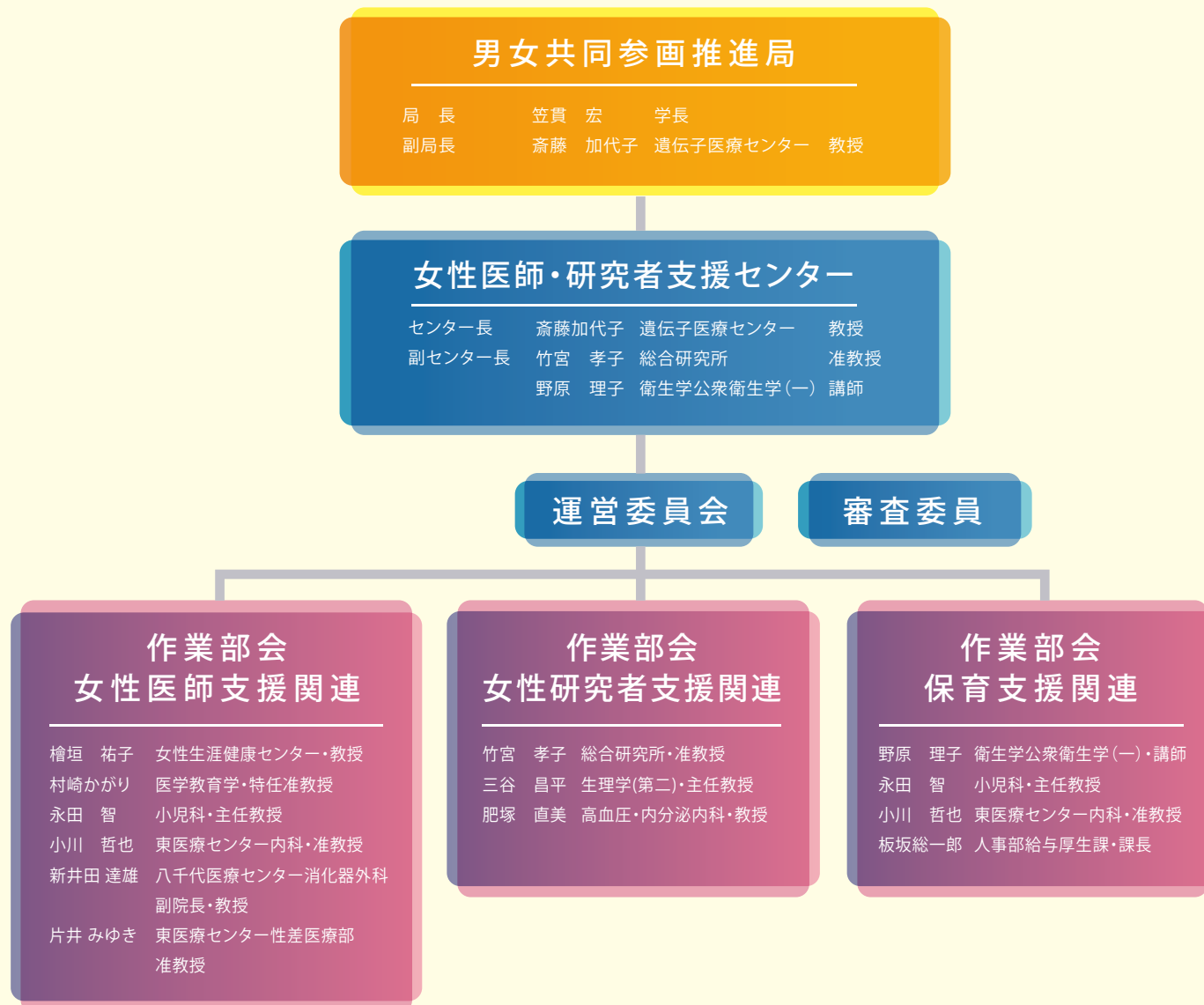
昨今女性の社会進出は目覚ましく、今後ますます女性の活躍が期待されています。それに伴い、子育て支援をはじめとする職場環境整備が急がれています。本学では以前より附属保育所やファミリーサポートを整備し、保護者が安心して研究や仕事を行えるような様々な子育て支援を行っています。しかし、目標としている職場環境にはまだまだ到達できていません。

子どもを育てながら意欲的に研究や仕事を行うためには、子育てでも積極的に行える環境が必要です。保護者は子どもが熱を出した時、どこかで誰かに対応してもらい、子どものことを気にせず働けることを望んでいるのでしょうか。以前私が行った調査では、大多数の保護者が「子どもが病気の時は自分で見てあげたい」と回答していました。子どもが病気の時は保護者がすぐに駆け付けられ、子どもの保育園や学校の行事に遠慮なく出席できる職場であつたら、そこで働き続けたいと思うのではないのでしょうか。誰もが心と身体にゆとりを持ち、お互いを大切にし、助け合える職場が目標です。保護者の子育てを支援し、充実した研究・仕事が継続できる職場環境づくりのために日々努力をしております。今後ともご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



衛生学公衆衛生学(一)  
講師 野原 理子

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、平成21年4月に「女性医師・研究者支援センター」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



## センターの事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- **キャリア形成支援事業** …… 女性医師・研究者の育成支援
- **勤務体制検討事業** …… 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- **保育支援事業** …… 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- **他大学との連携事業** …… 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- **社会への啓発事業** …… センターの広報

## 女性臨床系教員のためのテニュアトラック 宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

故・宮原敏氏(本学昭和7年卒業)の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い、取り組んでいける支援となっています。

## 優れた女性医学研究者への研究奨励 佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による「女性医学研究者支援」

故・佐竹高子氏(本学昭和8年卒業)の遺贈により設立された基金から女性医学研究者研究奨励金として優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、女性医師・研究者支援基金による「女性医学研究者支援」とあわせ最大3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

## 女性医師・研究者支援基金による「女性医学研究者支援」

当センターの活動にご理解・ご賛同をくださった方々からのご寄付によって成り立っている基金であり、佐竹高子女性医学研究者研究奨励金と同様に優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、再応募により最大で3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

「女性臨床医師支援」、及び「女性医学研究者支援」の対象者募集は、毎年10月頃を予定しています。

## 臨床系医師の短時間勤務制度 臨床系教員の短時間勤務制度

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった人や、小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

## 医療練士研修生の短時間勤務制度

医療練士研修生(大学院生を除く)の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

詳細は、女性医師・研究者センターのホームページに掲載しております。  
<http://www.twmu.ac.jp/w-support/index.html>

## 活動報告

2013

- 4月5日 (金) 女性医師支援シンポジウム打ち合わせ
- 4月19日 (金) 院内保育所ミーティング
- 4月22日 (月) 院内保育所ミーティング
- 5月2日 (木) 東京医科大学(医師・医学生支援センター)来訪
- 5月17日 (金) 院内保育所ミーティング
- 5月23日 (木) 女性医師支援シンポジウム打ち合わせ
- 5月25日 (土) 女性医師支援シンポジウム「ダイバーシティってなあに？」開催
- 6月11日 (火) 早稲田大学取材受入れ(女性医師支援関連)
- 6月17日 (月) 院内保育所ミーティング
- 6月26日 (水) 院内保育所運営部会
- 7月19日 (金) 東京医科大学(医師・医学生支援センター)来訪  
院内保育所ミーティング
- 8月16日 (金) 院内保育所ミーティング
- 8月27日 (火) 島根県(しまね地域医療支援センター)来訪
- 8月30日 (金) 海城中学校 取材受入れ(女性医師支援関連)
- 9月12日 (木) 第14回 女性医師・研究者支援センター運営委員会
- 9月25日 (水) 院内保育所ミーティング
- 10月1日 (火) 平成26年度 宮原敏基金・女性臨床医師支援 対象者募集  
平成26年度 女性医学研究者支援 対象者募集
- 10月8日 (火) 聖マリアンナ医大授業見学受入れ(女性医師のロールモデル実習)
- 10月15日 (火) 院内保育所ミーティング
- 11月11日 (月) 女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013参加
- 11月15日 (金) 院内保育所ミーティング
- 11月29日 (金) 兵庫医科大学来訪
- 12月18日 (水) 厚生労働省医政局にて懇談 院内保育所視察
- 12月20日 (金) 院内保育所ミーティング
- 12月24日 (火) 院内保育所運営部会

2014

- 1月10日 (金) ファミサポネットワーク会議
- 1月17日 (金) 院内保育所ミーティング
- 1月20日 (月) 平成26年度 支援対象者審査
- 1月25日 (土) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム  
ー地域と支え合う周産期医療ー最終報告会
- 2月14日 (金) 院内保育所ミーティング
- 2月18日 (火) 早稲田大学来訪(ファミリーサポート関連)
- 2月25日 (火) 順天堂大学来訪(女性医師支援・ファミリーサポート関連)
- 3月5日 (水) 厚生労働省 来訪・懇談
- 3月7日 (金) 文部科学省 来訪・懇談  
平成26年度支援者 オリエンテーション①
- 3月19日 (水) 平成26年度支援者 オリエンテーション②
- 3月20日 (木) 平成25年度支援者 学長訪問
- 3月24日 (月) 第15回 女性医師・研究者支援センター運営委員会



## イベント報告

女性医師支援シンポジウム

「ダイバーシティってなあに？」を終えて (平成25年5月25日)

### 男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センター

5月25日(土)臨床講堂Iにおいて、女性医師・研究者支援センター主催、本学総合研究所、文部科学省周産期医療環境整備事業共催による、女性医師支援シンポジウムが開催されました。シンポジウム前半は研究支援を受けた女性医師3名による研究成果の発表、後半は「ダイバーシティってなあに？」と題し、特別講師4名・本学医師2名をゲストとして迎えての公開討論会が行われ、性別や年齢、職種や立場を超えたやりとりが展開されました。シンポジウムには総勢162名の皆さまにご参加いただき、交流会にも33名の方にお集まりいただきまして、大変盛況のうちに終了できましたことをここにお礼申し上げます。

支援を受けた3名の女性医師による研究成果発表では、新井尚希氏(座長:玉置淳主任教授)、立石実氏(座長:長嶋光樹准教授)、松下典子氏(座長:橋本悦子教授)が、これまでのキャリアや支援を受けるに至った背景などを織り交ぜつつ、ご自身の研究を報告されました。今回は本学学生(4年生)の人間関係教育学の授業の一環として開催したこともあり、学生からは「自分の将来を考える上でとても参考になった、励みになった」といった声がアンケートなどで多く聞かれました。また今回、支援を受けた女性医師が所属する診療科(呼吸器内科、心臓血管外科、消化器内科)の所属長へ齋藤加代子センター長から感謝状が贈呈されました。

公開討論会「ダイバーシティってなあに？」(座長:竹宮孝子准教授)では、特別講師のベネッセコーポレーションの成島由美氏、ベネッセ次世代育成研究所の後藤憲子氏、KDDIの幡谷子氏、NHKの山室桃氏、本学の長嶋光樹氏、立石実氏が登壇し、それぞれが考えるダイバーシティについて活発な意見交換が繰り広げられました。社会の様々な分野の第一線で活躍されている女性(特別講師)から、それぞれのライフスタイルや仕事に対する姿勢・プロ意識を通じて、まさに多様な価値観が会場を包み、参加者からも「自分なりのダイバーシティがあっただと思えました」といった感想が聞かれました。女性医師が結婚・出産・子育てといったライフイベントを多様な価値観のもとで乗り越えていくためのヒントがたくさん詰まった討論会となりました。

(大学ニュース平成25年7月号より)

## 論文発表

著者名	タイトル	誌名
野原理子	地域と支えあう女子医大ファミリーサポート	労働の科学,2013,68(5):296-300
辰田仁美、北野尚美、星野寛美、加茂登志子、野原理子、田井鉄男、玉置哲也、南條輝志男	女性外来における加速度脈波を用いた疲労測定	日本職業・災害医学会誌,2013,61(3):175-179
Izumi M, Nomura K, Higaki Y, Akaishi Y, Seki M, Komoda T	Gender Role Stereotype and Poor Working Condition Pose Obstacles for Female Doctors to Stay in Full-Time Employment: Alumnae Survey from Two Private Medical Schools in Japan.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine ,2013,229(3):233-237
野原理子、櫻井美樹、齋藤加代子	女子医学生アンケート調査によるファミリーサポートを通じたキャリア教育の可能性の検討	東京女子医大会誌,83(4):235-241,2013
Michiko Nohara, Hitomi Tatsuta, Naomi Kitano, Hiromi Hoshino, Toshiko Kamo, Tetsuo Tai, Tetsuya Tamaki, Hishio Nanjo	Correlations between mood/anxiety disorders and working environment, occupational stress, health-related QOL, and fatigue among working women.	Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology,61,360-366,2013

## 学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
齋藤加代子	一般講演	口演	日本女性放射線腫瘍医の会	女性医師のキャリア形成支援: 東京女子医科大学における男女共同参画	横浜	2013.4.13
野原理子、吉川徹、石丸知宏、小林絵梨、唐田百合子、竹内由利子、岡久ジュン、望月麻衣、吉川悦子、松岡雅人	一般講演	ポスター	第86回日本産業衛生学会	タイムスタディによる大学病院勤務医の勤務実態の検討	松山	2013.5.16
榎垣祐子	一般講演	口演	第113回慈恵大学成医学会	女性のライフコースと女性医療者の支援	東京	2013.7.5
野原理子、齋藤加代子	特別報告	口演	第12回日本ウーマンズヘルス学会学術集会	女子医大ファミリーサポート最終報告	東京	2013.7.20
内山温、野原理子、齋藤加代子、楠田聡	特別報告	ポスター	第12回日本ウーマンズヘルス学会学術集会	男女共同参画型NICU人材養成プログラム-地域とささえあう周産期医療-	東京	2013.7.20
野原理子、辰田仁美、北野尚美、田井鉄男、星野寛美、加茂登志子、南條輝志男	一般講演	ポスター	第12回日本ウーマンズヘルス学会	就労女性の気分・不安障害の実態と関連要因の検討	東京	2013.7.20
内山温、齋藤加代子、野原理子、川村正行、梅野愛子、畑英恵、楠田聡	特別報告	口演	第12回日本ウーマンズヘルス学会	男女共同参画型NICU人材養成プログラム「周産期医療従事者養成事業」の概要と成果	東京	2013.7.20
齋藤加代子	特別講演	口演	第5回北海道小児科男女共同参画会議(エノモモンガ会)定期講演会	1)遺伝子医療: 遺伝と遺伝子の新しい医療、2)東京女子医大の女性医師支援	札幌	2013.9.28
Michiko Nohara	シンポジウム	口演	男女共同参画企画 女性支援ミニシンポジウム Women in academia and medicine	Tokyo Women's Medical University	東京	2013.10.16
榎垣祐子	一般講演	口演	第94回東京小児科医学会学術講演会	東京女子医大における女性医師支援について	東京	2013.10.20
齋藤加代子	一般講演	抄録、ポスター	女性研究者活動支援事業シンポジウム	女性医師・研究者のキャリア形成と子育て支援	東京	2013.11.11

## その他

氏名	機関	名称
齋藤加代子	東京女子医科大学医学部 女子中高生の理系進路選択支援プログラム	未来の医療を支えるのはあなた-第5回「最先端研究の進歩と女性研究者の活躍」講演, 2013.9.15
川上順子	東京女子医科大学医学部 女子中高生の理系進路選択支援プログラム	未来の医療を支えるのはあなた-第7回 女子中高生のためのサイエンスカフェ「医療に関わる仕事~将来自分がめざす道について考えてみませんか」講演, 2013.11.10
榎垣祐子	日本アレルギー学会	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会「男女共同参画医師支援ランチセミナー M&M相談会」, メンター, 東京, 2013.11.29
榎垣祐子	株式会社メディカル・プリンシプル社	女性医師・医学生シンポジウム, パネリスト, 東京, 2013.12.1
野原理子、齋藤加代子	東京女子医科大学 男女共同参画型NICU人材養成プログラム	地域とささえあう周産期医療-最終報告会「女子医大ファミリーサポートの構築と今後の展望」, 講演, 東京, 2014.1.25
野原理子	女性労働協会	リスクマネジメント事業セミナー「地域における子育て支援の安全管理~保育サービス講習の活用~」, 講演, 東京, 2014.3.17
野原理子	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター	市民講座-赤ちゃんからお母さんと社会へのメッセージ「地域社会の子育て支援」, 講演, 東京, 2014.3.22

## 論文発表

著者名	タイトル	誌名
Takeuchi C, Matsumoto Y, Kohyama K, Uematsu S, Akira S, Yamagata K, Takemiya T	Microsomal prostaglandin E synthase-1 aggravates inflammation and demyelination in a mouse model of multiple sclerosis	Neurochemistry International 62,2013:271-280
Takemiya T, Takeuchi C.	Traveled distance is a sensitive and accurate marker of motor dysfunction in a mouse model of multiple sclerosis.	ISRN Neurosci. 2013;1-4.2013
Takeuchi C, Yamagata K, Takemiya T	Variation in EAE scores in a mouse model of multiple sclerosis.	Wr. J. Neurol. 2013, 3(3), 56-61
Yiqiang Zhang, Noriko Matsushita, Tamar Eigler, Eduardo Marbán	Targeted MicroRNA Interference Promotes Postnatal Cardiac Cell Cycle Re-Entry	J Regen Med 2013, 2:2
Matsushita N, Hashimoto E, Tokushige K, Kazuhisa Kodama, Maki Tobar, Tomomi Kogiso, Nobuyuki Torii1, Makiko Taniai, Keiko Shiratori, Hiroshi Murayama	Investigation of Ornithine Carbamoyltransferase as a Biomarker of Liver Cirrhosis.	Internal Medicine 2014 in press

## 学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
Katsutoshi Tokushige, Etsuko Hashimoto, Noriko Matsushita, Kazuhisa Kodama, Tomomi Kogiso, Makiko Taniai, Nobuyuki Torii, Keiko Shiratori		ポスター	The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Disease	Serum Metabolomic Profile and Potential Biomarker for Activity and Steatosis in Nonalcoholic Fatty Liver Disease	Washington, DC	2013.11.2
OSAKA Toshifumi, HARUTA Ikuko, MATSUSHITA Noriko, HIGUCHI Tomoaki, YANAGISAWA Naoko, UESHIBA Hidehiro, HASHIMOTO Etsuko, YAGI Junji, TSUNEDA Satoshi		口演	Annual meeting of the Japanese society for immunology, 2013	The role of gut microbiota in the progression of non-alcohol fatty liver disease.	Chiba Japan	2013.12.13
春田郁子、松下典子、大坂利文、徳重克年、上芝秀博、樋口智昭、柳沢直子、ミヤケ深雪、橋本悦子、常田聡、八木淳二、白鳥敬子	一般講演	口演	第21回浜名湖シンポジウム2014	NAFLDマウスモデルを用いた病態と腸内細菌叢の検討	浜松	2013.12.22

## その他

氏名	機関	名称
立石 実	全国障害者問題研究会	「みんなのねがい」障害と医療 こどもの心臓病, 原稿執筆
近本裕子	東京医学社	書籍「小児急性血液浄化療法ハンドブック」ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群, 執筆
立石 実	m3.com(ソニーグループ医療専門サイト)	医療維新シリーズ「女性医師が輝き続ける条件」連載記事, 執筆
近本裕子	診断と治療社	日本小児腎臓病学会「小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドライン2013」作成委員
立石 実	青森県医師会	平成25年度 医学生・研修医のためのキャリアサポートセミナー, 「医師にとつての『キャリア』とは?」, 講演, 弘前
立石 実	日本経済新聞	医療面「女医活躍 職場が後押し」取材記事掲載
立石 実	株式会社メディカル・プリンシプル社	女性医師・医学生シンポジウム, パネラー, 東京
立石 実	岐阜県医師会	女性医師等就労継続支援講演会「医師にとつての『キャリア』とは?」, 講演, 岐阜
新井尚希	エア・ウォーター・メディカル株式会社	呼吸器領域の診療にたずさわる女性医師の為に第2回エア・ウォーター・メディカル講演会, 講演, 東京

# 支援を受けた 女性医師・研究者たち

平成25年度の支援者は2名。

それぞれ異なる分野で活躍している医師であり、研究者でありながら、母になったことをきっかけに仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら医師としてのキャリアを継続することを選択されました。お二人のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、励ましとなることを期待しています。



## profile

### 学歴

東京女子医科大学医学部(平成6年卒業)

### 職歴

平成6年 東京女子医科大学 小児科医局 入局  
 平成11年 東京女子医科大学 腎臓小児科 配転  
 平成14年 東京女子医科大学 腎臓小児科 助手  
 平成22年 東京女子医科大学 腎臓小児科 准講師  
 日本小児科学会専門医  
 日本透析医学会認定医  
 日本腎臓学会認定専門医  
 日本臨床移植学会腎移植認定医

私は小児腎臓病を専門として取り組んでまいりました。その経験を活かした臨床研究として、小児腎移植について検討を行いました。

小児腎移植は、近年の薬剤や管理の進歩に伴い、短期成績はほぼ満足できるものとなっています。しかし、長期成績の詳細は未だ明らかとはされていないものの十分に満足できるものではなく、また小児期に腎移植を受けた患者さんのその後の生活状況の詳細は不明です。移植腎を喪失した場合、患者さん自身の身体および生活、精神面への影響は甚大であり、長期成績の改善が強く望まれます。本研究により長期成績や生活状況を明らかとすることで、長期の生命予後や移植腎生着率の改善につなげ、さらに小児腎移植後患者さんの生活の質の向上に役立てたいと考えています。

以前より、腎臓小児科では小児腎移植の貴重な経験を積み重ねております。今までの小児腎移植に関して検討を行い、改めて示すことにより、今後の小児腎移植医療の発展につながり、また患者さんおよびそのご家族に有用で正確な情報提供が可能になると思います。

臨床中心の日々を送っておりましたが、今回出産をきっかけとして、宮原基金のご支援をいただくことになり、今までの経験を無駄にすることなく、将来につながることのできる形で1年を過ごすことができました。サポートをしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



### 今後の目標・夢

当科の腎移植の現状をまとめることで、問題点を明らかとし、腎移植の長期成績や患者さんの生活の改善につなげることが目標です。今回の結果が、今後腎移植を受けられる多くの患者さまに役立つことを願っています。また、小児腎移植の専門家だけでなく、患者さんやその家族、そして患者さんを取り巻く人々に、現状を知っていただくことで、患者さんがより適切なサポートを得ながら、社会で安心して活動できる場の確保につながればよいと考えています。

### メッセージ

ご支援をいただく機会に恵まれ、1年経ちました。ライフイベントをきっかけとして、生活環境だけでなく仕事の内容や質にも変化はありました。しかし仕事ができる状況をなによりありがたく思います。様々なライフイベントを迎えながら、仕事を続けてこられた先輩方のお陰で、最近は多様な状況への対応手段が整ってきています。道途中の私自身は、状況は変化するため、どのような形であっても仕事を続けること、そしてライフイベント自体は私的なことであっても、得た経験を無駄にせず、仕事に表現することが大切(義務)と考え、日々を積み重ねています。

# 女性研究者の紹介

消化器内科 松下 典子

【女性医師・研究者支援基金による女性医学研究者支援】

私は、東京女子医大を卒業後、同病院消化器内科研修医、同大学院を経て消化器内科教室助手として肝臓分野の研究に携わりました。卒業後7年目、夫の研究留学に伴い家族で渡米することになりましたが、私も米国で肝線維化メカニズムの解明について基礎研究に従事し、なんとか研究と双子育児(当時3歳)の両立にこぎつけることができました。最先端の研究に参加でき、学べたことはかけがいのない経験となりました。帰国後も同様に両立をしていきたいと模索していた際に、母校である本学での支援システムに出会うことができ、お陰様で子育てと共に、研究を継続できる環境に恵まれましたことに心より感謝しております。現在、消化器内科学教室において、我が国でも最も多い肝疾患となった非アルコール性脂肪性肝疾患を始めとした肝疾患の診療・臨床研究に携わると共に、マウスモデルを用いた基礎研究において、微生物免疫学教室と共同研究をさせていただいています。病因・病態の解明から、診断・治療につなげるトランスレーショナルリサーチを目指しております。



## 学歴 *profile*

東京女子医科大学医学部医学科(平成10年卒業)  
東京女子医科大学大学院医学研究科(平成16年卒業)

## 職歴

平成10年 東京女子医科大学病院消化器内科研修医  
平成12年 至誠会第2病院消化器内科  
平成16年 東京女子医科大学消化器内科助手、保健医療公社大久保病院消化器内科医員  
平成18年 Gastroenterology Division, University of Pennsylvania School of Medicine 客員研究員  
平成19年 The Southern California Research Center for ALPD and Cirrhosis, Keck School of Medicine of the University of Southern California ポスドクフェロー  
平成22年 東京女子医科大学消化器内科兼任女性医師研究者支援センター特任助教  
平成26年 東京女子医科大学消化器内科助教

## 今後の目標・夢 *メッセージ*

基礎研究で発見・開発された結果を臨床医学に応用し、早い段階での臨床研究(バイオマーカーの開発、治療予測因子、治療方法等)から医療での実践を目指し、社会に還元できるトランスレーショナルリサーチを目標に、肝疾患の診療に繋げていけたらと考えております。

本学入学以来、現在に至るまで、恩師・諸先生方よりご助言いただき、改めて今実感していること、それは仕事・研究をできるかぎり「継続」することです。自身の経験からもライフイベントにより、一時の休職は止むを得ないと思いますが、可能な限り早い復帰をおすすめしたいと思います。近年は、育児や介護と仕事の両立に対し、本学を含め社会環境も整いつつあり活用できる勤務形態、制度があります。また、有難いことに女子医大は多彩なロールモデルの宝庫でもあります。私も上司をはじめとして多くの方々に相談し、アドバイスをいただき、そしてこの支援により乗り越えてくることができました。各家庭環境、仕事状況は益々多様化してきていますので、是非、当支援センターを含め多方面に相談して情報を得てください。ライフイベントを迎えても、多くの女性医師・研究者が目標に向かっていくことのできる時代がきているのではと思います。

# 保育支援事業

院内保育所とファミリーサポート室が連携し、充実した保育体制を整備しています。



## 院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2か月～就学前の待機児				原則、3ヶ月～就学前
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金 (1時間)	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円

### 年間行事

- 4月 お誕生日会
- 5月 お誕生日会、避難訓練
- 6月 お誕生日会、避難訓練
- 7月 プール遊び、たなばた、お誕生日会、避難訓練
- 8月 プール遊び
- 9月 お誕生日会、避難訓練、秋のミニ遠足
- 10月 バザー、ハロウィン、お誕生日会、避難訓練
- 11月 お誕生日会、避難訓練(引き渡し訓練)
- 12月 クリスマス会、お誕生日会、避難訓練
- 1月 避難訓練、お誕生日会
- 2月 豆まき、お誕生日会、避難訓練
- 3月 ひな祭り会、お誕生日会、避難訓練

### 研修

- 6月 日本医療保育学会第17回大会:参加者1名、安全医療研修:参加者3名
- 7月 病児保育全国大会(山口県):参加者2名
- 8月 看護専門領域スキルアップ研修 知っておきたいBLS〜子供編:参加者2名
- 9月 看護専門領域スキルアップ研修 発達段階に合わせた看護ケア:参加者2名
- 11月 看護専門領域スキルアップ研修 子どものクリティカルケア:参加者1名  
通信教育講座受講修了者:参加者4名

### その他

- 保育所だより発行(毎月)
- 至誠会保育園の行事への参加

2013年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間保育	276	198	195	237	298	312	347	332	259	282	349	381
延長保育	77	63	57	70	86	78	79	103	91	82	93	104
夜間保育	71	62	61	54	62	80	57	58	61	55	67	69
休日保育	16	5	13	13	6	8	7	17	16	17	8	13
病児保育	37	24	31	32	22	26	31	26	14	36	24	16



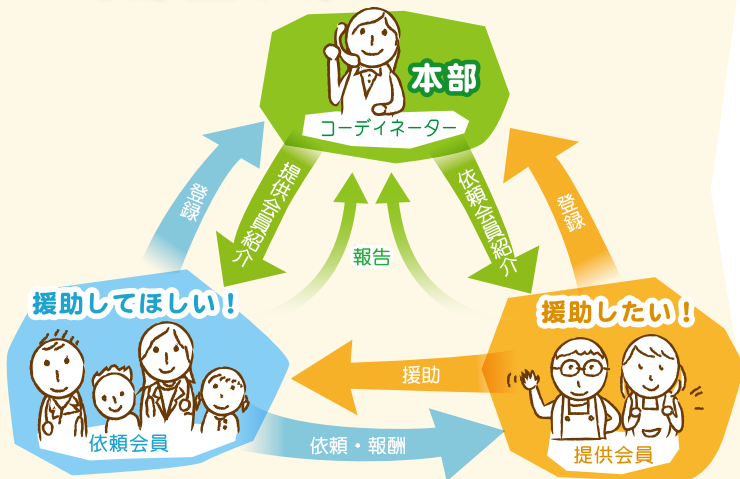
# ファミリーサポート



女子医大ファミリーサポートとは、東京女子医科大学の在籍者が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした、会員相互の援助活動です。また地域に対して医学的な知識・技術の提供を通して、地域全体の保育能力の向上を図り、地域と医療従事者との協力体制を構築することも目的としています。

2014年度からは、東京医科大学の在籍者の方々も依頼会員の登録が可能となり、「東京医大女性研究者支援事業女子医大ファミリーサポート連携プログラム」として本事業が行われます。

## 東京女子医科大学 派遣型家事育児援助システム 女子医大ファミリーサポート



98名

※2014年3月31日現在

125名

学生サポーター

11名

	一時預かり保育	病(後)児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね 2か月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間800円 19:00以降900円 (兄弟の2人目 以降は半額)	基本1時間 1,000円	1泊18,000円 (兄弟の2人目 以降は半額)

## 活動実績

### 保育サービス講習会

提供会員になるための基本講習。全30時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる【6月、10～11月】  
全30時間：開校式、保育の心、子どもの心の発達とその問題、子どものあそび、子どもの事故と安全、からだの発達と病気、障害をもった子どもの預かりについて、普通救命講習、子どものくらしとケア、子どもの栄養と食生活、病児保育とリスクマネジメント、保育サービスを提供するために、修了式

### スキルアップ研修会

提供会員の継続的なスキルアップを図る【7月、12月】  
ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ

### 全体交流会

提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【10月】  
女子医大園祭のイベントのひとつとして開催(提供会員さんによる手作りスライム、カラフルこま、折り紙など)

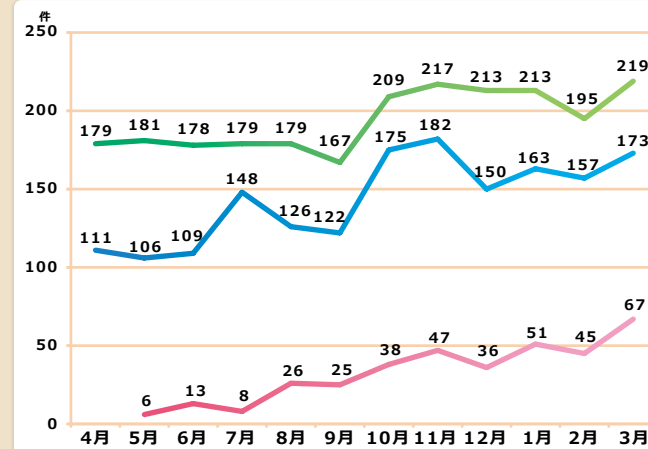
### 全体研修会

会員をはじめとする地域の方々のための育児支援についての講習会<一般公開講座>【1月】  
文部科学省大学病院人材養成機能強化事業「男女共同参画型NICU人材養成プログラム」最終報告会の第2部として開催、高橋久仁子先生(群馬大学教育学部教授)による『“食べもの神話”の落とし穴 ～食と健康～ 氾濫する情報を正しく読み取る～』講演会

### その他

ファミサポ通信8～10号発行【5月、10月、3月】  
自治体、大学、大学病院、メディアからの取材、シンポジウム、講演会等での発表

## 活動件数および内容



2013年度  
2012年度  
2011年度

2013年4月～2014年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	25	1	23	21	27	20	26	22	25	27	21	21	259
保育園・幼稚園の送り	18	37	21	19	20	20	21	24	23	21	23	29	276
保育園・幼稚園の迎え	68	73	70	79	77	58	86	64	57	52	50	49	783
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	23	24	18	23	17	29	32	32	31	30	27	37	313
保育園等の入所前の預かり							4	18	26	37	28	25	138
登校前の預かりと送り	7	15	14	8	4	12	16	15	14	17	14	15	151
学校の送り													0
学校の迎え													0
下校後の預かり	2	1	3			1	1		2	1	3	2	16
学校から学童保育への送り	9	9	6	6		6		1	2				39
学童保育の迎え								1					1
学童保育から帰宅後の預かり												1	1
保育園・幼稚園・学校等のお休みの預かり	11	4	3	8	9	8	4	8	3	2	3	12	75
子どもの習い事・塾等の送迎	5	8	7	5	15	7	4	4	4	6	8	8	81
保護者の臨時的就労の場合の預かり	1	1		2	3			2	10	4	7	5	35
保護者の学会・研修会参加時の預かり	1		3	3	2	4	3	2	1	3			22
保護者の外出時(冠婚葬祭・リフレッシュ等)の預かり	6	6	7		3	3	2	7	3		3	2	42
他の子どもの学校行事・通院時の預かり	3	2	3	4	1	9	5	7	4	10	4	10	62
保護者の病気時の預かり(出産前後等も含む)								1		3			4
病児・病後児保育				1	1		3	9	8		4	3	29
その他							2						2
	179	181	178	179	179	167	209	217	213	213	195	219	2329